

テーマ：「わたしたちは許さない！」

～ひったくり撲滅に向けた取組みについて～

稲村 みなさん、こんにちは。

さて、今日の「い～なこの街 尼崎」は、「わたしたちは許さない！」ひったくり撲滅に向けた取組みについて、お話ししたいと思います。

今日はゲストを迎えています。尼崎市の生活安全課、梶本課長です。よろしくお願いします。

梶本 生活安全課長の梶本です。よろしくお願いします。

稲村 現場最前線でがんばっている梶本課長に話をききながら、皆さんにも色々なお話をしたいと思います。

まず、この「ひったくり撲滅」ですが、こういう取組みをするということは、実は、残念ながら尼崎市には、多くのひったくり被害が発生している、ということです。

本当にひったくりが多かった平成 15 年頃に比べると、認知件数はずいぶん減ってきたのですが、平成 21 年以降少しずつ増加しており、22 年以降は毎年、兵庫県内の約 3 割のひったくりが、尼崎で発生しています。

この状況を放っておくことはできないと、まず平成 24 年に、「生活安全課」を新しく設置しました。特に街頭犯罪対策の強化を意識して設置した課で、もちろん高齢者の詐欺被害防止対策や、交通安全対策についても実施しています。

そして今、「尼崎ひったくり撲滅キャンペーン」として、様々な取組みを進めています。まずスタートとして、昨年の秋に、わたくし尼崎市長が「ひったくり撲滅宣言」をしました。この撲滅宣言のもと取り組んできた事業の内容について、梶本課長から紹介してください。

梶本 はい、わかりました。

これまでの事業は啓発が中心でしたが、この「ひったくり撲滅宣言」には「ひったくりを許しませんよ！」という市長の強い意志、メッセージが込められています。

具体的には、これまでの「わんわんパトロール隊」や、職員による「青色防犯パトロール」などに加え、「夜間の屋外点灯の呼びかけ」や、「ひったくり発生現場の看板設置」、「街頭犯罪防止講座の開催」などを、積極的に実施しています。

また、この機会を使い、県下初の「市内全域の一斉パトロール」も実施してきました。

稲村 尼崎市には 3 つの警察署がありますが、それぞれの警察署とも連携を強化し、「一斉パトロール」に一緒に取り組んでいます。

また、何ととっても、専門家の力を借りるという、新しい視点で進める事業も盛り込んでいるんですね。

梶本 はい。テレビでもご活躍のプロファイリング専門家、桐生正幸教授にご協力をお願いし、犯罪心理学の要素を事業に取り入れています。これは恐らくは、西日本では尼崎初めて。ひょっとしたら全国初めてかもしれません。

稲村 ではここで、私たちが桐生先生から受けたアドバイスなどを、皆さんにもお知らせしたいと思います。まず、そもそも、なぜ尼崎市でひったくりの発生率が高いのか？

梶本 あらかじめ桐生先生から頂戴した回答です。

街頭犯罪の特徴としては、やはり犯行のやりやすい物理的環境、状況が挙げられる、ということです。尼崎市内には路地や大きな植栽が多く、環境的には喜ばしいことですが、犯人にとっては、隠れやすく逃げやすいこととなります。

稲村 また坂道がないですね。

では、ひったくりに遭う人に、何か特徴や傾向はありますか？

梶本 非常に腹立たしいことですが、一般的には、力の弱い方が狙われやすい、ということです。

稲村 やはりお年寄りや女性ですか。

梶本 圧倒的にそうです。

稲村 それが本当に許せません。「私たちはひったくりを許さない！ 撲滅していく！」という強い姿勢と取組みを、市内はもちろん市外にも、しっかり見せつけていきたい、という思いです。

では、ひったくりに遭わないために、どういうことに注意すべきか。これについては、番組の最後に、まとめてお伝えします。

最近進めている取組みは、尼崎市の市バスに設置されたドライブレコーダーの活用です。ドライブレコーダーとは、事故があった場合に、後で検証するための映像を録画するカメラのことです。このカメラで録画した映像について、交通事故はもちろん、ひったくり犯罪に対しても、犯人の検挙につながる場合には、すみやかに活用できるように、「犯罪そして交通事故が発生しないまちづくりに関する協定書」を、市バス、警察署、そして私たち尼崎市で、締結しました。

こういった様々な意味での抑止力、そして市民の皆さんを守るための注意喚起を、さらに進めていきたいと思っておりますが、去年以来行ってきた取組みの結果はどうでしょうか。

梶本 ひったくり認知件数については、24年は258件だったものが、25年では175件と、3割減少させることができました。

稲村 少しずつだが確実に成果が出てきている、ということですね。

また、ひったくりの発生パターン自体も、少し変わってきましたか。

梶本 発生の統計パターンを作成したところ、1年のうちにひったくりが多発する時期があることが判明しました。具体的には、年末年始、4月、そして6月から夏にかけての3回です。

稲村 なるほど。そして、25年度の様々な取組みの結果、本来、非常に発生件数が多い12月に、減少し、新しい生活が始まる春先も、少し減少しましたね。

梶本 そうです。今、「ひったくりを許さない！」という強い気持ちで取り組んでいるため、なんとしても4月の山場を減らしてみせる、という思いの結果、4月の発生が7件と、過去にないような少ない件数になっています。

稲村 このような取組みをしっかりと進め、そして発信していくことで、成果につながったと、私たちは今、手ごたえを得ています。どうぞ皆さん、この番組をお聴きのお一人お一人も、「ひったくりなんかもう許さない！」という強い気持ちを持って、私たちと一緒に取り組んで欲しいと思います。

梶本 よろしくお願ひします。

稲村 では、「ひったくりに遭わないために、どういうこと気をつけたらいいのか」について、今、

「こんな人はちょっと注意！ 狙われやすいかもしれませんよ。」という「緊急チェック」のチラシを、各警察署と協力して、今、様々な場所で配布しています。この緊急チェックを私たちもやってみましょう。

梶本 このチェックリストは、警察が、過去の状況に基づいて項目を作りました。市長自らもチェックして下さい。7項目あります。買い物や仕事帰りを想像してチェックして下さいね。じゃあ、読み上げます。

稲村 はい。お聴きの皆さんもぜひ一緒に、チェックしてみてください。

梶本 「人通りの少ない道を通る」

稲村 これは、あまり通らないです。

梶本 「自転車のカゴに防犯ネットをつけていない」

稲村 つけています。

梶本 「バッグを持つ手は、車道側か建物側か気にしない」

稲村 あ、うん、微妙。三角。

梶本 「ショルダーバッグは片側の肩にかけ、斜めがけはしない」

稲村 あ、そうですね、ショルダーバッグはあまり持たないのですが、持つときはちゃんと斜めがけにしています。

梶本 「スマホをしながら歩いたり、携帯しながら自転車に乗る」

稲村 いえ、乗りません。

梶本 「後方からバイクが近づいても気にしない」

稲村 いや、やっぱり気になります。

梶本 最後です。「ハイヒールなど活動的でない服装である」

稲村 あ、これはチェックが入ります。やっぱりハイヒール履いていることが多いです。

梶本 今、市長、何項目チェック入りました？

稲村 えーっと、1個半ってところですね。

梶本 1個半ですね。

7つ項目のうち、チェックが1~2個あった人は、「ひったくりに注意してください」です。

3~4個チェックが入った人は、「あなたは狙われやすいタイプです」

5個以上あった方、「あなたは狙われています」。非常に危険な状況です。

稲村 なるほど、そうですね。わかりました。

つまりは、なるべく人通りの多い道を通り、自転車のカゴには防犯ネットつける、ということ。防犯ネットはぜひつけてください！ というのも、自転車の前カゴからひったくられるケースが多いんですよね。

「私はまさか被害に遭わないだろう」と思っている方が多いと思いますが、このような意識付けは「ひったくりをさせないまちづくり」にもつながります。

防犯ネットがない場合は、前カゴの荷物の上に雑誌を置くだけでも、効果があるようですよ。

梶本 全然違うみたいですね。

稲村 やっぱり犯人は、ひったくりしやすそうな人を狙って犯行に及ぶ、ということです。ですから私たち気をつけなければなりません。あと、スマホをしながら歩く、というのは…。

梶本 そもそも危険ですから、絶対しないように。

稲村 この項目にチェックがつく人は、狙われやすいので危ない、ということは、チェックがつか

ないように、気をつけてもらいたい、ということですよ。

このチェックリストは、尼崎市のホームページにも掲載していますので、皆さんもぜひ一度チェックしていただきたいと思います。

ひたたくり撲滅に向けた取組みは、今日、ご紹介しましたように、着実に成果を見せ始めています。でも、残念ながらやはり、撲滅までには、まだまだ引き続きの取組みが必要です。私も引き続き、全力でこの問題に取り組んでいきたいと思いますので、皆さんもぜひ、安心して暮らしやすいまちをつくっていきましょう。

梶本 よろしくお願ひします。

稲村 では皆さん、次回の放送もお楽しみに。

以 上